

京都サマープログラム2017

チューラーロンコーン大学文学部
ケーミガー ナンターヌゲン
July 31 – August 10, 2017

このプログラムに参加して、様々な国の方々に出会えました。日本人だけではなく、東南アジアから来た皆さん、すなわち、ベトナム、インドネシア、シンガポールの方々と出会うことができました。さらに、東アジアの国々の学生、すなわち、韓国、中国、香港、台湾の方々と知り合いになることができました。これらの国々は、考えているほどにはタイから離れていないけれども、事情がさまざま異なっています。例えば、文化的な事情や生活にかんする事柄などです。そのため、このプログラムに参加してから、それぞれの国の色々な事をもっと知りたくなりました。一般的に、自分の立場から見えることと他の人の立場から見えることは違っていると思います。もちろん、人によって考え方が様々であるのが普通ですが、「国によって考え方も違う」という観点は興味深く、このトピックに関して研究する価値はあると思います。このプログラムが終わって帰国した今、中国語の勉強を始めたいと考えています。中国語に興味を持ったのは、多くの国の色々なことばの来源が中国語にあるからです。文字について言えば、日本語には漢字という中国伝来の文字があります。韓国でも、日本のようにハンジャという中国の文字がつかわれています。中国語を勉強したいと考えるもう一つの理由は、授業の時に先生が教えてくれた単語が難しい漢字で書かれていて、一緒に勉強していた東アジアからの留学生の方が漢字で意味が理解できたのを見たからです。つまり、中国語が分かったら日本語の勉強がもっとスムーズになると思うからです。

京都では、色々なところに行き、とても楽しむことができました。このプログラムのサポーターの皆さんはいつも私たちの世話をしてくれたので、毎日の勉強と講義の受講を常に楽しむことができました。私が勉強していたコースは日本語Ⅱでした。このコースの内容は、とても面白かったと感じています。私はタイで日本語を勉強してきましたが、アニメから日本語について学習するのは初めてでした。また、「サザエさん」というアニメも初めて見ました。とても面白いアニメだと思いました。新しい単語を学習しつつ、聴解の練習をするという、とても役に立つ授業だと思いました。そして、無声映画からセリフを作るということもとても楽しく、日本語の練習になりました。コースを担当なさった浦木貴和先生は、いつもゆっくり説明してくれました。授業以外、私が感動したのはヒジノ・ケン・ビクター・レオナード准教授の「Democracy : desirable, but disappointing and in danger」という講義です。テーマだけでなく、講義内容もたいへん面白い講義でした。もし機会があったら、もう一度この講義を受講したいと思います。

このプログラムに参加して、とてもいい勉強になりました。今の私にはまだ足りないところがたくさんありますが、日本語の勉強を続けて、さらに上達したいと思います。今回、初めて日本に来ましたが、この2週間の経験から、日本のことがさらに好きになりました。将来は、日本に関係する仕事をしたいと思っています。